

生涯教育だより

2025

春

季刊 No.137



原爆ドーム（広島県）

評議員会・理事会および研究助成金授与式・論文入賞者表彰式開催	2
歴史研修「福島の城めぐり」	6
美術研修「長崎アート紀行 -西洋と東洋の交わるところ-」	8
「星空ミュージアム」へ協力	10
プロフィール・インタビュー	12
東京大学名誉教授 小間 篤さん	



評議員会・理事会 および 研究助成金授与式・ 論文入賞者表彰式開催

持続可能な社会の実現に向けて学びの機会を提供



あいさつをする
北野 七重専務理事

2024年11月8日、The Okura Tokyoにて評議員会・理事会および研究助成金授与式・論文入賞者表彰式が行われました。評議員会では、第51期決算および第52期予算が報告され、すべて承認されました。

その後、会場を移し、研究助成金授与式・論文入賞者表彰式が行われました。冒頭、財団を代表して北野七重専務理事が次のようにあいさつしました。「高齢化社会、少子高齢化と呼ばれて久しいですが、追い打ちをかけるように先の見えない物価上昇が続いています。企業努力によって所得は少しずつ上向いているものの、個々で教育やスキル向上にお金を費やすことは難しい状況です。その反面より多様なスキルを持つ人材が求められています。リスキングや学び直しを通じて新たなスキルを習得することが、生活や社会の安定につながることは言うまでもありません。生涯教育とは、個人がキャリアを通じて必要な知識や技術を継続的に学ぶ機会を提供するもの。持続可能な社会の実現に向けて、当財団はいつでも、どこでも、だれでも学べる、をモットーに、生涯にわたっての学びの機会を提供してまいります」。

研究助成金授与式

続いて、生涯教育に関連する調査、研究を支援するための研究助成金の授与式が行われました。今回は助成した11名が出席し、研究題目と概要が司会者より発表されました。

「子どもから始めるロコモティブシンドローム予防と健康づくり」
久保 温子さん

（西九州大学リハビリテーション学部教授）

高齢者以外の世代では、ロコモティブシンドローム予防の意識が低く、研究も多くありません。本研究ではその対象を子どもにまで広げ、世代をまたいだ横断的な調査から、その予防対策と啓発を進めます。

「生涯学習としての芸術・文化活動の高齢者のウェルビーイングへの効果」
野口 泰司さん

（国立長寿医療研究センター
老年社会科学研究部主任研究員）

高齢者はさまざまな要因により、生きがいの低下をはじめとするウェルビーイングに支障をきたしています。そこで、芸術文化活動を生きがいの確保に重要な要素だと位置づけ、さまざまな芸術文化活動を通してウェルビーイングへの影響を調査します。

「生涯教育における『STEAMS（STEAMS）教育』理念浸透のための啓発活動」触知体験型教育遊具を用いて」
村松 俊夫さん

（放送大学 山梨学習センター 特任教授）

科学、技術、工学、数学、芸術にスポーツを加えた、総合的なSTEAMS教育の重要性が提唱されています。これらを推進するために、小型の触知型教育遊具を開発し、それらを用いたSTEAMS教育の浸透を目指します。

「対話的な学びを目指す国際共修型の社会教育プログラムの開発」会話実践についてのふりかえりの深化とそれに伴う言語行動の変容に関する研究」
杜 長俊さん

（北海道大学 高等教育推進機構 准教授）

背景や文化が異なる外国籍住民と日本籍住民との話し合いを通して、多文化理解の深化と言語行動の変容を目指す社会教育プログラムを開発します。受講者によるふりかえりの分析から、本プログラムの学びの可視化を目指します。

「薬剤師の実践的研究遂行を伴う生涯教育プログラムの構築」エビデンスを構築できる薬局薬剤師を養成する」
安原 智久さん

（株式会社メディセレ薬局 薬局長）

薬剤師は、薬の副作用の発見や患者の人生の質（QOL）検証に関するものが求められますが、その役割が少ない実態

があります。そこで、科学的な視点と統計学的な分析によって、医薬品の効果や安全性、患者のQOL向上を見極める能力とスキルを養成するプログラムを構築します。

「多様な主体への生涯学習推進に向けた産官学域連携による学習プログラムの開発」市民センターをフィールドとした『地域FMラジオ実習』事業を事例に」矢ヶ井那津さん

（北九州市立大学 地域共生教育センター 特任教員）
北九州市立大学の学生が市民センターへのインターンシップを行います。そこで発見した地域課題を、FM放送で発信するという産官学のプログラムを開始します。学習動機の形成やきっかけづくりを目指します。

「知識・技能を他者と共有し主体性を育成する高齢者の生涯学習活動に関する研究」神戸市・豊岡市で手芸作品を創作する婦人を対象として」

山下 香さん

（甲南女子大学 文学部 准教授）
身近な材料を用いた簡易な手芸作品の創作活動家が、「おかんアート展」という展示会を開催。それがワークショップの開催へと変化した要因について主体性に着目し、その変化を測定し可視化します。個人の知識・技能を披露する場が主体性を育成し、他者・地域・社会へとつながるための要件といった新たな知見を得られることが期待されます。

「拡張現実による新しい対話的美術鑑賞の提案」

飛田 博章さん

（産業技術大学院 教授）

美術鑑賞のニーズは高く、幼児教育から高齢者ケアなど幅広い場面で取り入れられています。その中でも複数人による対話的美術鑑賞は生涯学習においても非常に重要な手法。そこにeコマースサイトで利用されるIT技術を組み合わせることで、新しい対話的鑑賞を実現します。

「通信制高校生徒の卒後に向けた適応支援」教職員による支援のアセスメントツールの開発」

平部 正樹さん

（聖心女子大学 准教授）



講評

多くの方が 取り組む研究に、 一つの知見を

研究助成金選考委員長
理事・放送大学長

岩永 雅也

前回からまた応募者が増え、今回は97名の方にご応募いただきました。多くの方が応募していただいたことに加え、そのおよそ6割が20代から40代までの若い方々であったということも、大変うれしく感じています。

その中で、助成対象者に選ばれた方の多くが、自分自身も「学ぶ人」であると振り返られていたことには感銘を受けました。例えば、大学を出た後に専門学校に通い、漆器作りの技能を学ばれたという成田さんの経歴には、リカレント教育のお手本のような生き方だと感じ入りました。また、そこから生涯学習・教育の研究に進むことは、一つのキャリア形成の好例であるということも再認識しました。

最後に、応募される方の中に「研究の希少性」をアピールされる方がいらっしゃいました。しかし私は、誰もやっていないから研究するのではなく、意味があるからこそ多くの方が関わってきた優れた先行研究をしつかり学び、そこに自分自身の知見を足すことが、科学の本質であると考えます。助成を差し上げるのは、研究の成果を評価したのではなく、あくまでその計画を評価した結果です。そのことを忘れず、研究費を最大限有効に使っていただければと思います。

現在、通信制高校はメンタルヘルスの課題を持った生徒が多く入学するようになりまし

た。社会的意義が増大する一方で、卒業後の進路で不対応のリスクが高いことが指摘されています。そこで、通信制高校への支援の質向上に資するアセスメントツールの作成を実施します。

「一般吹奏楽団と学校施設を核とした生涯に渡り吹奏楽活動を継続できる環境整備の可能性を探る」一般吹奏楽団による学校施設利用・学校部活動指導は地域の持続可能な吹奏楽活動に貢献し得るか」

榎野 邦彦さん

（岡山大学 教師教育開発センター 准教授）

岡山市中区では、地域住民と一般吹奏楽団が協力して、学校施設を活用した子ども

たちの地域吹奏楽クラブ「富山ハートフルバンド」の取り組みが行われています。生涯にわたり吹奏楽活動に親しむことができる地域づくり、環境づくりや意識の醸成にどの程度寄与し得るかを調査します。

「伝統工芸のリカレント教育と工芸文化の継承」

成田 智恵子さん

（京都産業大学 准教授）

日本独自の伝統工芸品の技術を継承するために、「工芸職人」と「扱う人々」を橋渡しする場を作り、特に後者がキャリア活用できる実践的な知識を学んでもらいます。両者がともに職業上活用できる実学を学び続ける環境を構築します。



論文入賞者表彰式

続いて、第46回懸賞論文入賞者の表彰式が行われました。今回のテーマは「希望・未来に活かす私の経験」。全国から359編が集まり、19編が入選しました。表彰式に出席した8名の入賞者には北野七重専務理事より表彰状と目録が渡されました。

第1席「縁側に託す想い」

長谷川 綾さん

(茨城県・歯科衛生士)

弟と漂流し救出された母は、別の船で日本にたどり着いた父と出会う。ベトナム人の両親の元、私は日本で生まれる。「どん底」と感じる幼少期、唯一の楽しみは縁側での「妄想」。中学校からのブチ脱走劇を経験し、両親の脱走劇や生きる希望について考える。

第2席「モウチョットマテバ」

鄧 朝陽さん

(宮城県・学生)

日本に来て間もない頃、突然の揺れに襲われた。過去の私が、現在の私の肩を叩く。昼下りの故郷の教室で、大震災が小学生の私を襲った。瓦礫の中、老婆が私に語りかけた。「もうちょっと待てば？きつとどこかに希望があるはずよ」と。

第2席「二本の氷柱に見た希望」

本田 美徳さん

(大阪府・病院勤務)

三十八年間の警察人生で長く警備部門に携わってきた。警備の道を志すことになった、若かりし自分の人生観が変わった出来事と上司の金言。この金言を部下に伝え、手応えを感じていた時、またしても試験の現場がやってくる。

第3席「いつか隣人の役に立てるなら」

板垣 嘉彦さん

(新潟県・無職)

退職後に母の「介護」が始まった。介護の苦勞を実感する中、認知症も加わり、私は心身ともに疲弊していく。久しぶりに訪ねてきた娘と母の関わりから、母自身も認知症になったことを悲しんでいることに気づく。母への語り方を変えた先に、光が見えた。

第3席「心の雨にビニル傘」

松井 千穂さん

(滋賀県・団体職員)

三度の引越しても手放さなかったビニル傘。華やかな世界から戦線離脱し、ベビーカーを押し出かけていたある日。急な雨の中で「自分なりに生きればよい」と許された気持ちにしてくれた出来事。その日頂いた傘は、何度も私に勇気をくれる。

第3席「食べる喜び、『希望』への扉」

朝倉 実唯菜さん

(長野県・学生)

小学校卒業目前に発症した摂食障害。この病気を患ったことで気づけたことがある。このままでもいいと思っていた当初。希望を持ち、栄養の持つ重要性を噛みしめている今。手放すべき自分と愛すべき自分と向き合い、希望に満ちて進んでいく。

第3席「ストーマにも愛をこめて」

紀伊 保さん

(愛知県・会社員)

五人の子どもだけでなく姑と義弟を含めた大家族を切り盛りし、姑の介護と父の看病の末の看取りまで献身的に家族のために尽くしてきた母。度重なる病魔にも屈せず、周りにはたくさん笑顔が溢れていた母が教えてくれた最高の人生とは。

第3席「前を向いて」

大倉 麻衣子さん

(静岡県・ライター)

それが「見て見ぬふり」だと気づくまで、私は……。希望に満ちた新生活、念願の職場で大声と大きな音が響いた。震える私をロッカー室に連れていったのは、ほぼ全ての女性社員が苦手とする女性社員だった。今の私は誰かの希望の光になれるよう、本当の前へと進む。



◀北野七重専務理事から
賞状を授与される
第1席 長谷川綾さん

◀後列左から大倉 麻衣子さん、紀伊 保さん、板垣 嘉彦さん
松井 千穂さん、本田 美徳さん、朝倉 実唯菜さん
前列左から長谷川 綾さん、沓澤 利治常務理事、小松 章審査委員
北野 七重専務理事、鄧 朝陽さん

講評

心に希望を持って、人生を歩もう



論文審査委員
理事・一橋大学名誉教授

小松 章

今回のテーマは、「希望・未来に活かす私の経験」。2024年は元旦早々に能登半島で大きな地震が発生。その後も異常気象による自然災害が頻発しました。ウクライナ侵攻をはじめ国際情勢は不穏ですし、明るい希望の持てる社会であってほしいとは、今や誰もが願うところではないでしょうか。そのような中で、自分の経験を、勇気を持って綴っていただいた作品が多く、審査のしがいがありました。

うした作品をいくつか選んだ理由は、世の中に大勢いるであろう同じ立場の人々の希望になれば、という思いからであります。

希望というのは心の問題だと思えます。では、「心」とは何でしょうか。昔の日本人は、心は「腹」にあると考えました。腹の中で何を考えているか分からない、腹を割って話す、腹が黒いなど、腹に関するさまざまな言葉があります。

一方、西洋では心は「心臓」にあると考えられました。胸が騒ぐ、胸が痛むなどといった言葉は、西洋の考えが日本に伝えられてから生まれた表現であると考えられます。そして今は、心は「脳」にあると言われています。脂質とタンパク質で作られた脳という科学的な物質が、

私たちの身体の動きを司り、心を司っているのです。そして、脳は、いくつになってもバージョンアップすることが出来ます。苦しいとき、たとえ作り笑いであってもよいから笑顔で前へ進もうと意識すると、脳が自分自身をその方向へ導こうとするのです。素晴らしいと思いませんか。

今回の懸賞論文をまとめた冊子の表紙は、シャボン玉のイラストです。この表紙にちなんで、謎掛けをします。希望とかけ、シャボン玉と解く。その心は、第一「淡く儂い、追ってもむだ」。第二「目の前に幸せの虹が見える。頑張ろう」。皆さん、ぜひ第二の心を持って、人生を歩んでいくではありませんか。

〈私の生涯教育実践シリーズ '24〉

『希望-未来に活かす
私の経験-』

1,000円
ぎょうせい刊

ご希望の方は
(株) ぎょうせいまでどうぞ。

URL : <https://shop.gyousei.jp/>



プログラム

ピアノ：稲垣 みなみさん

愛知県立芸術大学
音楽研究科博士課程 鍵盤楽器領域
「J.S.バッハ / サラバンド、エコー（フランス風序曲より）」

作曲：伊藤 元太さん

愛知県立芸術大学
音楽学部 作曲専攻 作曲コース
「伊藤元太 / 演奏会用小品」※世界初演

クラリネット：庄司 直央さん

愛知県立芸術大学
音楽学部 音楽科 器楽専攻 管打楽器コース
「F.メンデルスゾーン / ヴェネツィアの舟歌、エレジー（無言歌集より）」



披露演奏のために作曲した
世界初演の素晴らしい曲を
演奏する伊藤 元太さん



▲力強く繊細なクラリネット
の音を奏でる
庄司 直央さん

◀左から成本 里香音楽学部長、
ピアノ伴奏 菅原 舞永さん、
庄司 直央さん、伊藤 元太さん、
稲垣 みなみさん

表彰式終了後には愛知県立芸術大学の音楽奨学生による披露演奏が行われました。美しい音色に来場者一同が酔いしれました。

音楽奨学生による披露演奏



歴史研修

2024年
9月18日(水)～9月19日(木)



福島之城めぐり

今回の歴史研修は、国指定史跡の白河小峰城跡、「難攻不落の名城」としても有名な鶴ヶ城(会津若松城)、自然の要害地形を利用して営まれた中世および近世の城跡である二本松城を歴史学者の小和田 哲男先生の名解説と共にめぐり、学び多き研修となりました。



解説

静岡大学名誉教授
小和田 哲男氏



体感型の展示で楽しく小峰城の歴史が学べる小峰城歴史館。小和田先生の解説を熱心に聴く参加者

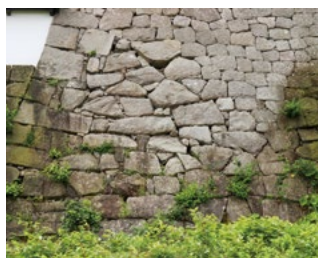
小峰城

残暑の厳しい9月でしたが、一行が到着した小峰城は標高が高く、空気は少しひんやり。軽い足取りで研修はスタートしました。

小峰城は、結城親朝が1340年ごろに小峰ヶ岡に城を構えたのがはじまり。江戸時代の1632年に藩主 丹羽長重が4年の歳月を費やして完成させました。1868年に始まった戊辰戦争では旧幕府軍側に付き、新政

府軍に敗れ落城。現在建つ櫓や門は、1990年代に、江戸時代の絵図に基づき忠実に木造で復元されたものです。

小和田先生からは、小峰城がどのように敵から城を守っていたのか解説がありました。さまざまな方角に門が配置され一直線に侵入しにくいようになっている、帯曲輪と呼ばれる石垣で中心部を高くし、下から来た敵を弓や石で撃退したなど、実際の建造物の跡を見ながら学びました。



小峰城で最古と考えられる慶長期(1600年前後)の石垣。大型で不定形の石材を使用しているのが特徴的



三重櫓と前御門。三重櫓は「見栄えがいい」として小和田先生のお気に入り



帯曲輪門跡の写真を撮る小和田先生



戊辰戦争で撃ち込まれた鉄砲玉の跡が複数残る

小峰城は木造復元の先駆け!

昭和時代、城の復元といえば鉄筋コンクリート造が一般的でした。「比較的低い三重櫓なら木造でも復元できるのではないか」と、小峰城の三重櫓は木造での復元が試みられ、見事成功。以後、より大型の城でも木造での復元が主流となりました。

鶴ヶ城（会津若松城）

続いて訪れたのは、鶴ヶ城（会津若松城）。その起源は、1384年に輩名直盛が築いた東黒川館に遡ります。1593年、ここに会津藩初代藩主 蒲生氏郷が東日本で初の本格的な天守を建て、このときに「鶴ヶ城」と命名しました。戊辰戦争では小峰城同様激しい戦闘の舞台となりますが、鶴ヶ城は新政府軍の猛攻に一カ月もの間耐え続けます。このことから、難



大変美しい鶴ヶ城（会津若松城）。命名の由来は、鶴は縁起が良いから、領地が鶴の形に似ていたから、など諸説あり

攻不落の名城としてその名を知らしめました。明治時代の廃城令で一度は取り壊されますが、昭和時代に再建。2011年には屋根瓦が幕末当時の赤瓦にふき替えられ、現在の姿となりました。



石垣に残るハート型の石。見つけるとしあわせが訪れるかも!?（実際には「猪目（いのめ）石」と呼ばれ魔除けの意味が込められているそう）



小和田先生おすすめの石垣スポット。東日本でもトップクラスの高さを誇る石垣を橋の上から間近で見られる

二本松城

二日目に訪れたのは、標高約345mの白旗が峰の上に築かれた二本松城。別名「霞ヶ城」とも呼ばれ、桜の花が城全体を包むように咲き、その様子が霞に包まれたように見えることに由来しています。

二本松城の歴史は、1414年に畠山満泰によって築かれたことに始まります。その後伊達氏、蒲生氏、上杉氏、加藤氏と目まぐるしく城主を変え、1643年、二本松藩初代藩主 丹羽光重の居城となりました。戊辰戦争では「二本松少年隊」と呼ばれる少年たちも果敢に戦いますが、わずか一日で落城。その後の廃城令で、焼



登山のような二本松城本丸跡への山道

け残った建物もすべて破棄されましたが、昭和から平成にかけて箕輪門や本丸の石垣など一部が再建されました。

一行は、まず2022年開館の「にほんまつ城報館」を訪れ、二本松城の歴史を学びました。その後実際に二本松城を訪れ、小和田先



登り切った参加者の素敵な笑顔

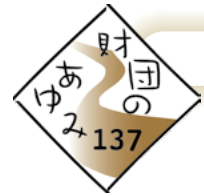


にほんまつ城報館の前で。にほんまつ城報館では歴史が学べるだけでなく、旅行者も地域住民も楽しめるさまざまなイベントが随時開催されている

生の解説の下、さまざまな史跡を見て回りました。本丸までの上り坂が険しく息を切らしながらも、なんとか登り切った一行。山頂に堂々とそびえ立つ石垣は圧巻で、眺望も抜群。さわやかな笑顔で記念撮影をすることができました。



搦手門（からめてもん）跡。この上に門が乗っていた。城の裏面にあたる門で、表面の大手門の半分ほどの大きさ



美術研修

2024年10月8日（火）～10月9日（水）

講師：美術研究家 沼辺 信一氏

長崎アート紀行

―西洋と東洋の交わるところ―

当財団では、かれこれ40年以上美術研修を実施していますが、今回は初の九州訪問です。古くから諸外国との外交や貿易で栄え、最先端の思想や文化、学問を求めて日本全国から人が集まっていた長崎を、美術研究家の沼辺信一先生と共にめぐりました。



平和公園



ライムンド・デ・マドラーソ
《リュサンジュ公》
長崎県美術館所蔵



長崎県美術館



ダニエル・バスケス・ディアス
《人気闘牛士たち》
長崎県美術館所蔵
@VEGAP, Madrid & JASPAR, Tokyo, 2025 E5831

長崎県美術館

長崎水辺の森公園に隣接し、「呼吸する美術館」をコンセプトとした未来的な建物です。運河を挟んで二つの棟に分かれ、風・光・水と緑に包まれた開放的な空間から、設計者である隈研吾氏の世界観が感じられます。

この美術館の最大の特徴は、東洋有数の規模を誇るスペイン美術コレクションです。第二次大戦中に特命全権公使としてスペインに赴任していた故・須磨彌吉郎の収集作品を中心に、17世紀の宗教画から20世紀のパブロ・ピカソやジョアン・ミロまで貴重なコレクションを見ることが出来ます。

当日は、長崎ゆかりのエングレーヴィン・グ作家の企画展「生誕80年 渡辺千尋の銅版画」にて代表作の数々を鑑賞することができました。晩年の作品における「メゾチント」手法について、講師の沼辺先生より「銅版全体を刃物で傷つけて真っ黒な画面にしてから、図柄を白く削り出す手法」と



野口彌太郎《那智の滝》
長崎市野口彌太郎記念美術館所蔵



野口彌太郎《フレンチカンカン》
長崎市野口彌太郎記念美術館所蔵



渡辺千尋《幻花I》
長崎県美術館所蔵



解説をする沼辺先生



須加五々道《彩梢》
長崎市須加五々道美術館所蔵



長い階段を上り、大浦天主堂へ

晴天の下、美術館、平和公園、大浦天主堂などをめぐったのち、佐世保、九十九島まで足を延ばしました。車中ではガイドさんから被爆地の悲劇的な歴史を学び、実り多き二日間となりました。

の説明がありました。その幻想的な作品の数々は、不思議なオーラを放っていました。

長崎市 野口彌太郎記念美術館

野口彌太郎（1899～1976）は30歳で渡欧し、ヨーロッパ絵画、特にスペイン系の絵画の中に東洋的精神を感じ、その作風に大きな影響を受けました。そして、独特の色彩感覚により日本のフォーヴィスムを確立した洋画家として知られます。

日本では「野獣派」とも言われるフォーヴィスムは、印象派に続いて20世紀初頭にパリで発表された新しい表現です。細部描写は徹底的に簡略化され、平面的ではつきりとした色彩と力強いタッチが特徴で、代表的な画家としてアンリ・マティスの名が挙げられます。

野口彌太郎は、ゆかりの地である長崎の風景をたびたびモチーフとし、生命力に溢れた作品で近代日本の洋画界に新風を吹き込みました。

長崎市 須加五々道美術館

長崎生まれの須加五々道（1913～2008）は、水墨画の技術に西洋の遠近法を融合させた「新日本画」と呼ばれる独特の画風を創造しました。ため息が出るほど繊細な風景画が、旧居留地の洋館にマッチした素敵な美術館でした。

大窪いやしの杜公園で開催のライトアップイベント 「星空ミュージアム」へ協力

2024年10月5日（土）～10月27日（日）に

当財団創設者の北野隆春生誕の地、山梨県笛吹市境川町

「藤壺の滝」大窪いやしの杜公園で開催されたライトアップイベント

「星空ミュージアム」に協力しました。

彫刻奨学生の作品を スタンレー電気の投光器でライトアップ

同公園には当財団が奨学金を支給している彫刻奨学生より毎年寄贈されている彫刻が展示されています。その作品が今年で100体を超えたことを記念して、北野隆春が創業したスタンレー電気の最新投光器を使用してライトアップイベントを演出し、盛り上げました。

初日のオープニング式典には笛吹市の山下市長はじめ、多数のご来賓の方々にお出でいただきました。あいにくの雨天に見舞われましたが、期間中は総じて好天に恵まれ、大勢の来訪者の方々に幻想的な光とそれに映し出された彫刻を楽しんでいただくことができました。イベント終了後は、ライトアップに使用した投光器を笛吹市観光協会に寄贈しました。「星空ミュージアム」は年一回の開催ですが、彫刻はいつでも見学できますので、ぜひお出かけくださいませ。



アクセス

左記QRコードよりご確認ください。



「藤壺の滝」大窪いやしの杜公園 彫刻エリア



ライトアップされた彫刻

いやしの杜公園彫刻エリア

旧境川村藤壺に生を受けた北野隆春氏は、刻苦勉強してスタンレー電気株式会社を創業し社業を発展させました。氏は晩年に至って広く向学の志を支援したいと「北野生涯教育振興会」を創設し、「彫刻奨学金制度」を設け、若き芸術家の育成に努めており、毎年奨学生の作品を公園内に設置し、現在101点の作品展示に至っております。多数の彫刻があるこの公園は、芸術と自然に親しめる公園として、訪れる方々から好評を博しています。

（笛吹市HPより）

ご報告



秦野市より「図書寄贈」への感謝状受領

当財団が毎年行っている小・中学校への図書寄贈に対して、1月22日、秦野市から感謝状を授与されました。当日は南小学校の校長や秦野市教育委員会の委員長、そして南小学校図書委員の子どもたちから感謝のお言葉をいただきました。当財団はこれからも子どもたちの学びのきっかけになるよう図書寄贈を続けてまいります。

北野生涯教育振興会 図書寄贈セレモニー



図書の寄贈 誠にありがとうございました

令和7年1月22日(水) 南小学校校長室にて
秦野市立小学校13校・秦野市教育委員会一同

お知らせ



第47回 事実に基づく小論文・エッセー募集「わたしと「読書」」

応募規定 縦書き400字詰め

A4原稿用紙8枚〜10枚

3月31日(月)から

応募システムにより応募開始

締切 2025年5月7日(水)

賞金

1席(1編) 賞状・副賞50万円

2席(3編) 賞状・副賞20万円

3席(5編) 賞状・副賞10万円

佳作(10編) 賞状・副賞3万円

入賞発表 2025年9月中旬

表彰式 2025年11月14日(金)

表彰式 The Okura

Tokyo (ホテルオークラ東京)

横須賀・鎌倉の美術館をたずねて

美術研究家の沼辺信一氏と横須賀美術館・神奈川県立近代美術館鎌倉別館・鎌倉市鶴木清方記念美術館をバスで巡ります。

日程 5月14日(水)

8時30分〜18時30分

集合 渋谷セリアタワー前

定員 36名程度(抽選)

伝承講演会

『能』に親しむ

伶以野陽子氏他による能の解説

舞・謡・能面の体験そして能「羽衣」の鑑賞と大変盛り沢山な内容となっています。雅な「能」の世界へいざないます。

日程 7月12日(土)

13時00分開場 13時30分開演

会場 めぐろパーシモンホール

小ホール

定員 160名程度(抽選)

就任のお知らせ

これからの財団活動の充実を図るため、あらたに本庄陽子さん、岩永雅也さん、島原理子さんが理事に、富永伸治さんが評議員に就任されました。引き続きよろしくお願いいたします。



本庄 陽子
理事



岩永 雅也
理事



島原 理子
理事



富永 伸治
評議員

こ・ち・ら・編 集 室

第47回事実に基づく小論文・エッセー募集の課題は「わたしと「読書」」に決定いたしました。深刻な「読書離れ」が叫ばれている今、学びの原点である「読書」の持つ意味を改めて考えてみませんか。人は読書から言葉や表現を学び、言葉を持つことによって世界が大きく広がります。読書でしか得られないものがきっとあるはずです。人生における読書の大切さ、読書とあなたとの関わり、読書によって得られた幸せを、ぜひ皆さんに伝えてください。

設立のねらい

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足し、2010年12月1日に公益財団法人となりました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる機会をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持てるよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

生涯教育だより 第137号

2025年3月10日発行
編集人 香澤 利治 発行人 北野 重子
発行所 公益財団法人 北野生涯教育振興会
〒153-0053 東京都目黒区五本木1丁目12番16号
電話 東京 03(3711)1111

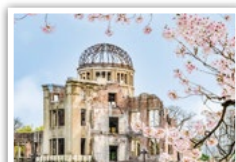
表紙ギャラリー

当財団は、『出会いにはドラマ、感動する心を大切に!』というスローガンのもと、出会いを大切に、様々な学ぶ機会を提供してきました。人との出会いだけでなく、城や神社仏閣などの歴史的建造物や長い歴史に育まれた美しい原風景との出会いからも学ぶことは多いのではないかと考え、『世界遺産』を財団機関紙でご紹介します。

原爆ドーム(広島県)

広島原爆ドームは、1945年8月6日に広島に投下された原子爆弾によって壊滅的な被害を受けた遺構です。当時、広島県産業奨励館として使用されており、西洋建築の特徴を持つモダンなデザインは、市民や観光客に親しまれていました。しかし、爆心地からわずか約160メートルという近距離に位置していたため、建物は大部分が崩壊し、多くの命が失われました。それでも、鉄骨と壁の一部が倒壊を免れ、戦後、この悲惨な出来事を忘れないために保存運動が行われました。その結果、原爆ドームは「平和の象徴」として保存されることが決まり、1996年にはユネスコ世界遺産に登録されました。平和記念公園内に位置するこの遺構は、戦争の恐ろしさと核兵器の脅威を伝えるとともに、世界中の人々に平和の大切さを訴えかけています。投下から80年経った今でも、人々が足を運ぶ特別な場所です。

2024年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。平和が世界の願いとなっています。



写真提供:denkei/PIXTA



東京大学名誉教授

小間 篤さん

ATSUSHI KOMA

「好き」を突き詰めた先に 本当にやりたいことが 見えてくる

2024年から当財団の奨学金選考委員会の選考委員を務める小間さん。
ご自身の経歴をもとに、生涯教育に対するお考えをお話いただきました。

——小間さんのご経歴についてお聞かせください。

父が総合電機メーカーで働いていた影響で、小さい頃から科学に興味がありました。電機メーカーの研究職を志し、1968年に東京大学工学部物理工学科に進学。当時は半導体の黎明期で、その将来性の高さに魅力を感じて半導体の基礎研究に取り組んでいました。大学での研究が海外に評価されたため、当初描いていたメーカーの研究職ではなく、



江崎玲於奈さん宅にて（左端が小間さん）

助手（現助教）として大学に残ることに。助手として働く中、1973年からは、のちにノーベル物理学賞を受賞される江崎玲於奈さんにお声がけいただき、アメリカのIBMの研究所で博士研究員として1年半研究を行いました。

日本に戻つてからは、当時設立されたばかりの筑波大学で約7年間助教として勤務。在籍時に提唱、実証した、異なる層状物質を自由に積層し、新物質を生み出す「ファンデルワールスエビタキシ」^①といわれる基本概念は、現在でも多くの論文に引用されています。

その後は理学部の教授として東京大学に戻り、2001年からは副学長として経営にも参画するようになりました。副学長を務めていた頃は、ちょうど国立大学が法人化されるタイミング。法人化により、順調に伸びていた日本の基礎研究力が阻害されないよう尽力しました。また、その後在籍した科学技術振興機構（JST）では、個々の研究を評価し、研究費を助成する立場も経験しました。2011年からは秋田県立大学の理事長兼学長に就任。大学の評価を上げるため、主に教員の論文執筆のサポートを実施し、多くの論文形式の文献を世に出す仕組みを整えることで、外から評価される大学づくりに取り組みました。

——奨学金選考委員会の選考委員を務めていただくことになった経緯について教えてください。



東京大学で副学長を務めていた時の上司にあたる、佐々木毅さんからの紹介です。佐々木さんは財団の理事を務めていたご経験があり「ぜひ小間さんに」と声をかけていただきました。2024年から選考委員を務めています。生涯教育という分野では専門外ですが、JSTと秋田県立大学時に多くの論文を拝見し、評価してきた実績があります。選考の際は、その人の着想がよく、実際に実績があつて、それを実現できるかという観点で評価しています。

——生涯教育に対するお考えをお聞かせください。

研究助成の審査で皆さんの論文を読んだり、お話を伺っていたりすると、多くの方が好きでたまらないことや、その延長線上にあることをテーマに研究に打ち込んでいる印象を受けました。私にとつてはそれが研究そのものであり、学生を育てることです。そうした寝食を忘れて物事に取り組みるようなものが、生涯教育につながるのだと思います。

——余暇の過ごし方を教えてください。



オーディオです。大学に入った年がステレオ元年であり、入学祝いでステレオを買ってもらい、自分でスピーカーを組み立てるほど凝っていました。また、ソニーの研究室でCDが世に出る前に見せていただいた経験もあり、デジタル技術によるオーディオの進化に感動したことも思い出深いですね。秋田県立大学で学長を務めていた頃は官舎が広かったため、自分のこだわりを詰めたオーディオを集めて大音量で音楽を流すことが至福のひとつでした。

——読者の皆さんにメッセージをお願いします。

私の研究や趣味は、さまざまなものやことを経験した先に残ったものです。皆さんも、まずはいろいろな経験をして、自分が本当に打ち込めるものを見つけてみましょう。それがあなたにとつての生涯教育になります。

ご自身の研究や趣味について熱く語る姿から、小間さんの原動力の源が垣間見えたような気がしました。今後も選考委員を務めていただく小間さんの活躍にご期待ください。